

先日、久しぶりに図書館に行きました。本館の図書館だったので、分館と比べ大きく、たくさん本がありました。

館内を回ると、それぞれのジャンルごとに本が分類されていました。興味のあるタイトルの本を手に取り、パラパラと目を通し、見終わったらまた次の本を見る、というのを繰り返していると、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

自分が普段から興味のあることに關して、また特に興味のないことに關しても、新しいことを知ることができました。

インターネットが普及し、スマホも一人一台の世の中になりました。

様々な情報を、本からだけでなくテレビ、ラジオ、新聞に加えネットからも手軽に知ることが出来る様になりました。

聖書の中の「使徒の働き」という書卷に、使徒パウロがアテネの街に伝道したときの記事としてこうあります。

使徒の働き十七章「アテネ人も、そこに住む外国人もみな、何か耳新しいことを話したり、聞いたりすることだけで、日を過ごしていた。」

今の時代と同じようなところがあるのではないのでしょうか。

皆様に、人間にとって一番重要で一番大切な情報を知っていただきたいのです。それは聖書に書いてあるイエス・キリストの救いです。

聖書は、神様が人を通して書かれた確かな書物です。

聖書にはすべてのものを造られた唯一なる神様について書いてあります。

そして、人は神様に対して罪があり、イエス・キリストの十字架の救いが必要であることが書いてあります。

ヨハネの福音書三章「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。

それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

是非皆さまに聖書を手にとっていただき、イエス・キリストの救いについて考えていただきたいのです。

聖書福音集会では、皆様に聖書の中に書いてあるイエス・キリストの救いについて、わかりやすく話をします。

ぜひお越しください。